

サステナウィーク2024 取組団体一覧

種類凡例

- ★ イベントの開催
- 商品・サービスの紹介
- ◆ 取組に関する情報発信
(WEBサイト、店頭、YouTube、SNS等)

北海道

- ◆ インサイトマネジメント株式会社
- ◆ 明治ホールディングス株式会社
- ★ 北海道コカ・コーラボトリング株式会社
広報・サステナビリティ推進部



東北

宮城県

- ◆ カルビー株式会社
サステナビリティ推進本部 サステナビリティ推進部



関東

茨城県

- ◆ いばらきコープ生活協同組合
- ◆ フィード・ワン株式会社



栃木県

- ◆ 池の入農園
- ◆ とちぎコープ生活協同組合



群馬県

- ◆ 生活協同組合コープぐんま



北陸・信越

石川県

- ◆ 特定非営利活動法人アグリファイブ



新潟県

- ◆ 生活協同組合コープデリにいがた



長野県

- ★ 北アルプスオーガニックプロジェクト
- キリンホールディングス株式会社
- ◆ 生活協同組合コープながの
- ★ 公立大学法人長野県立大学



富山県

- ★ 株式会社森の環



東海

愛知県

- ★ 株式会社おとうふ工房いしかわ
- つむぎて農園
- ◆ マミリカズ



静岡県

- ◆ 一般社団法人おから再活研究所



三重県

- ◆ とば実



近畿

大阪府

- ◆ 大阪いずみ市民生活協同組合
- 株式会社サンプラザ



京都府

- ★ クオックロップ株式会社
- ★ 日本農業株式会社
たんとスープ・たんとファーム



兵庫県

- ◆ 株式会社日清製粉グループ本社



中国

山口県

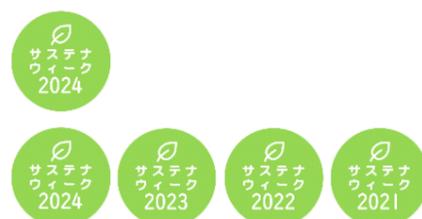
- ◆ 株式会社ニッスイ



九州

福岡県

- ◆ NPO法人博多ミツバチプロジェクト
- ★ イオン九州株式会社



宮崎県

- ◆ 株式会社杉本商店



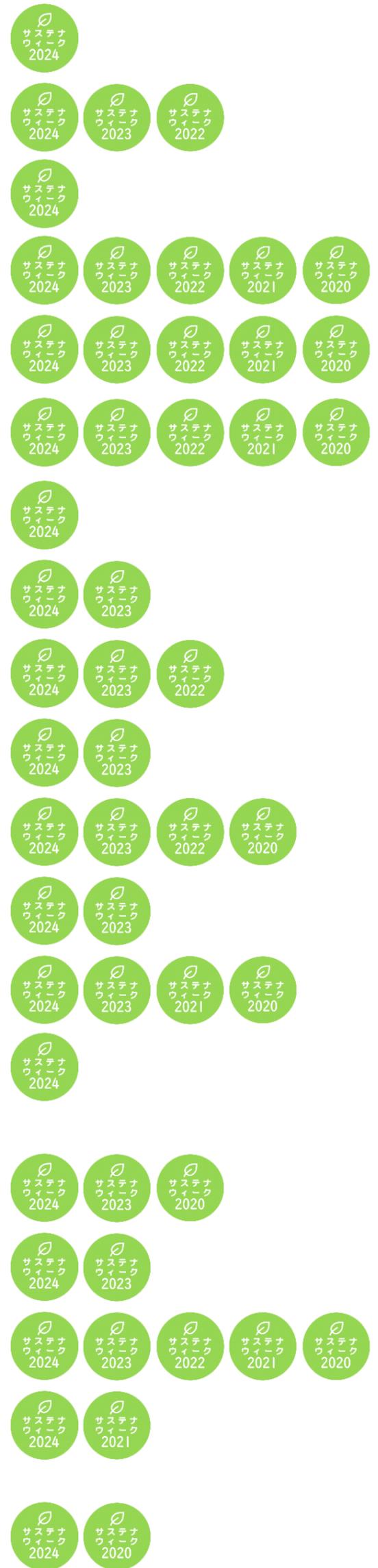
大分県

- ◆ NPO法人北九州・魚部



全国

- ◆ アカウントエージェント株式会社
- ★ 一般社団法人MEL協議会
- ★ 一般社団法人日本協同組合連携機構
- 一般社団法人日本有機資源協会
- エスビー食品株式会社
- ★ オイシックス・ラ・大地株式会社
- 株式会社アースコーポレーション
- 株式会社だいでイズ
- ◆ 株式会社日清製粉グループ本社
- 株式会社ニッスイ
- ◆ 昭和産業株式会社
- ◆ 壤結合同会社
- ★ 日本生活協同組合連合会
- 日本農業株式会社
たんとうスープ・たんとうファーム
- ◆ ハウス食品グループ本社株式会社
- 三菱食品株式会社
- 明治ホールディングス株式会社
- 森永乳業株式会社
- ◆ MS & ADインシュアランス
グループホールディングス株式会社



サステナビリティ推進部

海外

- 株式会社デルタインターナショナル
- 明治ホールディングス株式会社
- ◆ 森永乳業株式会社



サステナウィーク2024 各種イベント 取組一覧

種類凡例

- ★ イベントの開催
- 商品・サービスの紹介
取組に関する情報発信
- ◆ (WEBサイト、店頭、YouTube、SNS等)

北海道

メンバー名	種類	取組名	取組内容	参照リンク先
インサイトマネジメント株式会社	◆	サステナビリティ祭り2024	インサイトマネジメント株式会社では、北海道で途上国向けに実施するJICAの研修「持続可能な食料システム戦略による地場産業振興」コースでの講義、農業、食産業の視察の様子を紹介します。	取組紹介ページ
明治ホールディングス株式会社	◆	酪農の温室効果ガス排出削減に向けた取組み	明治グループは、酪農・乳業における温室効果ガス排出量削減に向け「道東カーボンファーム研究会」の構成メンバーとなりました。(カーボンファーム：大気中のCO2を土壌に取り込んで、農地の土壌の質を向上させGHGの排出量削減を目指す農法。)酪農家と連携し、生乳生産量日本一の別海町をフィールドとして、「カーボンファーム」の評価・研究・実践を目的とした取組みを推進します。	取組紹介ページ
	●	明治オーガニック牛乳～循環型農業の推進～	明治グループでは、有機JAS規格の認証牛乳である「明治オーガニック牛乳」を製造販売しています。北海道網走郡津別町にある指定牧場で、有機農法の考え方に基いた方法で飼育された乳牛から搾った生乳のみを使用しています。有機酪農は、環境への負荷低減に配慮した有機飼料での飼育、牛にやさしい環境での飼育という観点に配慮して行う酪農です。環境や牛の健康にも配慮した酪農を支援しながら、新しい牛乳の価値を提供していきます。	取組紹介ページ
北海道コカ・コーラボトリング株式会社、広報・サステナビリティ推進部	●	PETボトルの水平リサイクル「ボトルtoボトル」	北海道コカ・コーラボトリング株式会社では、使用済みPETボトルを回収・リサイクル処理したうえで、新たなPETボトルに再生する水平リサイクル「ボトルtoボトル」を推進し、プラスチック資源の循環利用に取り組んでいます。この100%リサイクルPETボトルは、石油由来の原料から製造されるPETボトルと比べ1本あたりCO2排出量を約60%削減するものです。日本のコカ・コーラシステムでは「2030年までにすべてのPETボトルをサステナブル素材※に切替えること」を目指しています。また、当社独自で「はずすはがす かえす」のキャッチフレーズを導入し、分かりやすく行動変容を促すことで、プラスチック循環型社会の実現に向けた啓発活動を行っています。 ※サステナブル素材 = ボトルtoボトルによるリサイクルPET素材と植物由来PET素材の合計	取組紹介ページ
	◆	廃棄物の再資源化と活用	北海道コカ・コーラボトリング株式会社では、工場から排出される全ての廃棄物を再資源化する「ゼロエミッション」活動に取り組み、2001年から目標を100%達成しています。飲料製造の際の副産物であるコーヒー豆のかすや茶かすは堆肥になるほか、一部は2020年8月より株式会社カーム角山との協働事業として、コーヒー豆のかすを牛の敷き藁として使用し、使用済みの敷き藁はバイオマス発電原料にも活用されています。また、茶かすは家畜用飼料エコフィードの研究のために酪農学園大学へ提供しています。エコフィードは廃棄物量の削減のほか安心安全な食肉生産という観点からも持続可能な社会の構築に寄与するものです。	取組紹介ページ
	★	アップサイクルを学ぶコーヒー石けん作り	北海道コカ・コーラボトリング株式会社では、コーヒー製品を製造する際の副産物であるコーヒー豆のかすをスクラブとして活用した【コーヒー石けん作り】を通して、アップサイクルを体験するプログラムを開催しています。地球のために私たちが今日からできることは何かを考え、自分ゴトとして捉えてもらえるよう、SDGsや当社のリサイクルの取組みについても紹介しています。	取組紹介ページ
	●	「コミュニティ・フリッジ恵庭」への製品寄贈	北海道コカ・コーラボトリング株式会社では、北海道にお住まいの皆さまが安心して暮らせる社会をサポートするために、コミュニティ・フリッジを通じ生活の支援を必要とする方々に製品配布を行うとともに、賞味期限間近の製品を寄贈することでフードロス削減を目指すもので、年間で当社製品120ケース(2,880本相当)を寄贈しています。 ※コミュニティ・フリッジとは24時間無人で稼働するフードバンク施設で、食料品・日用品の支援を必要としている人たちが、時間や人目を気にせずに、開館時間内で都合がいい時に食料品や日用品を取りに行くことが可能です。	取組紹介ページ
	◆	水資源保全への取組み	北海道コカ・コーラボトリング株式会社では、貴重な水資源を利用して事業活動を行う企業として、製品に使用した量と同等の水を自然に還元する取組みを進めており、水使用量の削減「リデュース (Reduce)」、製造過程で使用する水の循環「リサイクル (Recycle)」、地域の水源涵養「リプレニッシュ (Replenish)」の3つの「R」を掲げています。取組みの1つとして、水源である札幌市清田区にある白旗山への植樹などの森づくり活動を通じて水源の涵養能力を高めることで、自然への還元を図っています。	取組紹介ページ

東北

宮城県

メンバー名	種類	取組名	取組内容	参照リンク先
カルビー株式会社 サステナビリティ推進本部 サステナビリティ推進部	◆	みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動	カルビー株式会社では、宮城県・仙台市と協定を締結し、被災地の森林づくりを推進する「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」に参画しました。カルビー東日本支店（宮城県仙台市）が主体となり、2023年10月7日に活動を開始、植樹会を実施しました。次世代につなげる復興支援の取り組みとして、震災で失われた海岸防災林の保育・保全を通じて地域に貢献していきます。	取組紹介ページ

関東

茨城県

メンバー名	種類	取組名	取組内容	参照リンク先
いばらきコープ生活協同組合	◆	サステナウィーク特設サイト	コープデリグループでは、サステナウィーク2024の期間中、特設ページを開設します。コープデリグループの提供する、食料や農林水産業の持続的な生産消費に関する各種サービスや取り組みを通じて「未来へつなげるおかいもの」をご紹介します。	取組紹介ページ
	◆	1週間にもう1杯お米を食べよう～ワン・モア・ライス～	コープデリグループでは、一人ひとりが無理なくちよとずつお米を食べる量を増やして、お米の生産者を応援する「1週間にもう1杯お米を食べよう ワン・モア・ライス」に取り組んでいます。お米の消費量が減り続け、さらに生産コストの上昇や生産者の高齢化・後継者不足など、日本のお米づくりは多くの課題に直面しています。無理なく、気軽に手軽に、1週間に今よりも1食多くお米を食べることで、米農家の応援はもちろん、日本の田んぼを守り、食料自給力の維持・向上を目指しています。	取組紹介ページ
	◆	産直はなゆき農場有機牛の取り組み	私たちの食卓に並ぶお肉。「国産」のお肉であっても、飼料の大半は輸入に頼っており、牛肉の場合はわずか9%です。また国内の生産者は高齢化し、後継者が不足しています。日本の畜産業は今、「低い飼料自給率」と「担い手不足」の課題に直面しています。コープデリでは、持続可能な食料生産を目指し「産直はなゆき農場有機牛」の取り組みを通じて、「食料自給力の向上」と「担い手の育成」にチャレンジしています。サステナアワード2023の動画もぜひご覧ください。	取組紹介ページ Youtube
	◆	飼料用米の取組み～お米育ち豚プロジェクト	コープデリグループでは、「日本のお米づくりを守りたい」との思いから、2008年に「お米育ち豚プロジェクト」をスタートしました。飼料用のお米をつくり、そのお米で育てた産直豚肉を組合員へお届けしています。飼料の一部を国産の飼料用米に替えて、日本の農業・畜産業を元気にする取り組みをすすめています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
	◆	美ら島応援もずくプロジェクト	コープデリグループでは、「ウミガメが訪れる海と自然を守りたい」との思いから、2010年、「美ら島応援もずくプロジェクト」をスタートしました。沖縄県伊平屋島産もずくの売り上げの一部を「美ら島応援基金」に寄付し、島の美しい自然環境を保護する活動に役立っています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
	◆	佐渡トキ応援お米プロジェクト	コープデリグループでは、「生きものと共生できるお米づくりをささげたい」との思いから、2010年に「佐渡トキ応援お米プロジェクト」をスタートしました。CO・OP産直新潟佐渡コシヒカリとその加工品の売り上げの一部を「佐渡市トキ環境整備基金」に寄付し、トキのエサ場となる田んぼづくりに役立っています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
	◆	フードドライブもったいないをありがとうに	コープデリグループの会員生協では、店舗や組合員施設に専用の食品回収ボックスを設置したり、イベントで呼びかけたりして、個人が家庭などから持ち寄った食品をフードバンク等に寄贈するフードドライブ活動に取り組んでいます。一人でも多くの食品を必要とされる方へ支援を届けるために、地域のフードバンクとの連携を強化し、専用ボックスの設置場所を増やしています。	取組紹介ページ
	◆	食品ロスを工夫して削減	商品の生産から製造・物流・消費までのフードチェーンの各段階で、食べられる食品が廃棄される食品ロス。コープコープデリグループでは、規格外農産物の取り扱いや商品の納品期限の延長、物流段階でロスになりそうな食品のフードバンクへの寄贈、組合員が参加して家庭の食品ロスを防ぐフードドライブ活動など、フードチェーン全体でアクションを進めています。	取組紹介ページ
フィード・ワン株式会社	◆	食品ロスの活用による資源循環型社会の実現	フィード・ワン株式会社では、鶏や豚を育てるための配合飼料の原料の一部に、コンビニエンスストア等から発生するお弁当などの食品ロスを乾燥加工した「フライドミール」を有効利用しており、これにより食品リサイクルに貢献しています！	取組紹介ページ
	◆	養蜂飼料の製造・販売	フィード・ワン株式会社で行っている「養蜂」は、ハチミツを採ることだけでなく、農作物の「花粉交配」という重要な役割があります。農作物の花粉交配に利用されるミツバチは、自然界の植物の受粉にも貢献しており、生物多様性の保護に寄与しています。フィード・ワン株式会社が製造する代用花粉「ビーハッチャー」及び「ビーブリード」は、養蜂において蜂児を増やしたい建勢期や花粉の少ない時期に給与する飼料であり、生物多様性の保護を担うミツバチの飼育管理を支えています。	取組紹介ページ

栃木県

メンバー名	種類	取組名	取組内容	参照リンク先
池の入農園	◆	サステナブルな取り組み～わたしたちができること	サステナブルについて畑から考える池の入農園ではサステナウィーク期間中、「できることを身近なところから」をテーマに、生産活動を通じて持続可能な地域のあり方について考えます。	
とちぎコープ生活協同組合	◆	サステナウィーク特設サイト	コープデリグループでは、サステナウィーク2024の期間中、特設ページを開設します。コープデリグループの提供する、食料や農林水産業の持続的な生産消費に関する各種サービスや取り組みを通じて「未来へつなげるおかいもの」をご紹介します。	取組紹介ページ
	◆	1週間にもう1杯お米を食べよう～ワン・モア・ライス～	コープデリグループでは、一人ひとりが無理なくちよとずつお米を食べる量を増やして、お米の生産者を応援する「1週間にもう1杯お米を食べよう ワン・モア・ライス」に取り組んでいます。お米の消費量が減り続け、さらに生産コストの上昇や生産者の高齢化・後継者不足など、日本のお米づくりは多くの課題に直面しています。無理なく、気軽に手軽に、1週間に今よりも1食多くお米を食べることで、米農家の応援はもちろん、日本の田んぼを守り、食料自給力の維持・向上を目指しています。	取組紹介ページ
	◆	産直はなゆき農場有機牛の取り組み	私たちの食卓に並ぶお肉。「国産」のお肉であっても、飼料の大半は輸入に頼っており、牛肉の場合はわずか9%です。また国内の生産者は高齢化し、後継者が不足しています。日本の畜産業は今、「低い飼料自給率」と「担い手不足」の課題に直面しています。コープデリでは、持続可能な食料生産を目指し「産直はなゆき農場有機牛」の取り組みを通じて、「食料自給力の向上」と「担い手の育成」にチャレンジしています。サステナアワード2023の動画もぜひご覧ください。	取組紹介ページ Youtube
	◆	飼料用米の取組み～お米育ち豚プロジェクト	コープデリグループでは、「日本のお米づくりを守りたい」との思いから、2008年に「お米育ち豚プロジェクト」をスタートしました。飼料用のお米をつくり、そのお米で育てた産直豚肉を組合員へお届けしています。飼料の一部を国産の飼料用米に替えて、日本の農業・畜産業を元気にする取り組みをすすめています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
	◆	美ら島応援もずくプロジェクト	コープデリグループでは、「ウミガメが訪れる海と自然を守りたい」との思いから、2010年、「美ら島応援もずくプロジェクト」をスタートしました。沖縄県伊平屋島産もずくの売り上げの一部を「美ら島応援基金」に寄付し、島の美しい自然環境を保護する活動に役立っています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
	◆	佐渡トキ応援お米プロジェクト	コープデリグループでは、「生きものと共生できるお米づくりをささげたい」との思いから、2010年に「佐渡トキ応援お米プロジェクト」をスタートしました。CO・OP産直新潟佐渡コシヒカリとその加工品の売り上げの一部を「佐渡市トキ環境整備基金」に寄付し、トキのエサ場となる田んぼづくりに役立っています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
	◆	フードドライブもったいないをありがとうに	コープデリグループの会員生協では、店舗や組合員施設に専用の食品回収ボックスを設置したり、イベントで呼びかけたりして、個人が家庭などから持ち寄った食品をフードバンク等に寄贈するフードドライブ活動に取り組んでいます。一人でも多くの食品を必要とされる方へ支援を届けるために、地域のフードバンクとの連携を強化し、専用ボックスの設置場所を増やしています。	取組紹介ページ
◆	食品ロスを工夫して削減	商品の生産から製造・物流・消費までのフードチェーンの各段階で、食べられる食品が廃棄される食品ロス。コープコープデリグループでは、規格外農産品の取り扱いや商品の納品期限の延長、物流段階でロスになりそうな食品のフードバンクへの寄贈、組合員が参加して家庭の食品ロスを防ぐフードドライブ活動など、フードチェーン全体でアクションを進めています。	取組紹介ページ	

群馬県

メンバー名	種類	取組名	取組内容	参照リンク先
生活協同組合コープぐんま	◆	サステナウィーク特設サイト	コープデリグループでは、サステナウィーク2024の期間中、特設ページを開設します。コープデリグループの提供する、食料や農林水産業の持続的な生産消費に関する各種サービスや取り組みを通じて「未来へつながるおかいもの」をご紹介します。	取組紹介ページ
	◆	1週間にもう1杯お米を食べよう～ワン・モア・ライス～	コープデリグループでは、一人ひとりが無理なくちよとずつお米を食べる量を増やして、お米の生産者を応援する「1週間にもう1杯お米を食べよう ワン・モア・ライス」に取り組んでいます。お米の消費量が減り続け、さらに生産コストの上昇や生産者の高齢化・後継者不足など、日本のお米づくりは多くの課題に直面しています。無理なく、気軽に手軽に、1週間に今よりも1食多くお米を食べることで、米農家の応援はもちろん、日本の田んぼを守り、食料自給力の維持・向上を目指しています。	取組紹介ページ
	◆	産直はなゆき農場有機牛の取り組み	私たちの食卓に並ぶお肉。「国産」のお肉であっても、飼料の大半は輸入に頼っており、牛肉の場合はわずか9%です。また国内の生産者は高齢化し、後継者が不足しています。日本の畜産業は今、「低い飼料自給率」と「担い手不足」の課題に直面しています。コープデリでは、持続可能な食料生産を目指し「産直はなゆき農場有機牛」の取り組みを通じて、「食料自給力の向上」と「担い手の育成」にチャレンジしています。サステナアワード2023の動画もぜひご覧ください。	取組紹介ページ Youtube
	◆	飼料用米の取組み～お米育ち豚プロジェクト	コープデリグループでは、「日本のお米づくりを守りたい」との思いから、2008年に「お米育ち豚プロジェクト」をスタートしました。飼料用のお米をつくり、そのお米で育てた産直豚肉を組合員へお届けしています。飼料の一部を国産の飼料用米に替えて、日本の農業・畜産業を元気にする取り組みをすすめています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
	◆	美ら島応援もずくプロジェクト	コープデリグループでは、「ウミガメが訪れる海と自然を守りたい」との思いから、2010年、「美ら島応援もずくプロジェクト」をスタートしました。沖縄県伊平屋島産もずくの売り上げの一部を「美ら島応援基金」に寄付し、島の美しい自然環境を保護する活動に役立っています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
	◆	佐渡トキ応援お米プロジェクト	コープデリグループでは、「生きものと共生できるお米づくりをささげたい」との思いから、2010年に「佐渡トキ応援お米プロジェクト」をスタートしました。CO・OP産直新潟佐渡コシヒカリとその加工品の売り上げの一部を「佐渡市トキ環境整備基金」に寄付し、トキのエサ場となる田んぼづくりに役立っています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
	◆	フードドライブもったいないをありがとうに	コープデリグループの会員生協では、店舗や組合員施設に専用の食品回収ボックスを設置したり、イベントで呼びかけたりして、個人が家庭などから持ち寄った食品をフードバンク等に寄贈するフードドライブ活動に取り組んでいます。一人でも多くの食品を必要とされる方へ支援を届けるために、地域のフードバンクとの連携を強化し、専用ボックスの設置場所を増やしています。	取組紹介ページ
	◆	食品ロスを工夫して削減	商品の生産から製造・物流・消費までのフードチェーンの各段階で、食べられる食品が廃棄される食品ロス。コープコープデリグループでは、規格外農産品の取り扱いや商品の納品期限の延長、物流段階でロスになりそうな食品のフードバンクへの寄贈、組合員が参加して家庭の食品ロスを防ぐフードドライブ活動など、フードチェーン全体でアクションを進めています。	取組紹介ページ

埼玉県

メンバー名	種類	取組名	取組内容	参照リンク先
コープデリ生活協同組合連合会	◆	サステナウィーク特設サイト	コープデリグループでは、サステナウィーク2024の期間中、特設ページを開設します。コープデリグループの提供する、食料や農林水産業の持続的な生産消費に関する各種サービスや取り組みを通じて「未来へつながるおかいもの」をご紹介します。	取組紹介ページ
	◆	1週間にもう1杯お米を食べよう～ワン・モア・ライス～	コープデリグループでは、一人ひとりが無理なくちよとずつお米を食べる量を増やして、お米の生産者を応援する「1週間にもう1杯お米を食べよう ワン・モア・ライス」に取り組んでいます。お米の消費量が減り続け、さらに生産コストの上昇や生産者の高齢化・後継者不足など、日本のお米づくりは多くの課題に直面しています。無理なく、気軽に手軽に、1週間に今よりも1食多くお米を食べることで、米農家の応援はもちろん、日本の田んぼを守り、食料自給力の維持・向上を目指しています。	取組紹介ページ
	◆	産直はなゆき農場有機牛の取り組み	私たちの食卓に並ぶお肉。「国産」のお肉であっても、飼料の大半は輸入に頼っており、牛肉の場合はわずか9%です。また国内の生産者は高齢化し、後継者が不足しています。日本の畜産業は今、「低い飼料自給率」と「担い手不足」の課題に直面しています。コープデリでは、持続可能な食料生産を目指し「産直はなゆき農場有機牛」の取り組みを通じて、「食料自給力の向上」と「担い手の育成」にチャレンジしています。サステナアワード2023の動画もぜひご覧ください。	取組紹介ページ Youtube

コープデリ生活協同組合連合会	◆	飼料用米の取組み～お米育ち豚プロジェクト	コープデリグループでは、「日本のお米づくりを守りたい」との想いから、2008年に「お米育ち豚プロジェクト」をスタートしました。飼料用のお米をつくり、そのお米で育てた産直豚肉を組合員へお届けしています。飼料の一部を国産の飼料用米に替えて、日本の農業・畜産業を元気にする取組みをすすめています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
	◆	美ら島応援もずくプロジェクト	コープデリグループでは、「ウミガメが訪れる海と自然を守りたい」との想いから、2010年、「美ら島応援もずくプロジェクト」をスタートしました。沖縄県伊平屋島産もずくの売上げの一部を「美ら島応援基金」に寄付し、島の美しい自然環境を保護する活動に役立てています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
	◆	佐渡トキ応援お米プロジェクト	コープデリグループでは、「生きものと共生できるお米づくりをささえたい」との想いから、2010年に「佐渡トキ応援お米プロジェクト」をスタートしました。CO・OP産直新潟佐渡コシヒカリとその加工品の売上げの一部を「佐渡市トキ環境整備基金」に寄付し、トキのエサ場となる田んぼづくりに役立てています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
	◆	フードドライブもったいないをありがとうに	コープデリグループの会員生協では、店舗や組合員施設に専用の食品回収ボックスを設置したり、イベントで呼びかけたりして、個人が家庭などから持ち寄った食品をフードバンク等に寄贈するフードドライブ活動に取り組んでいます。一人でも多くの食品を必要とされる方へ支援を届けるために、地域のフードバンクとの連携を強化し、専用ボックスの設置場所を増やしています。	取組紹介ページ
	◆	食品ロスを工夫して削減	商品の生産から製造・物流・消費までのフードチェーンの各段階で、食べられる食品が廃棄される食品ロス。コープコープデリグループでは、規格外農産品の取り扱いや商品の納品期限の延長、物流段階でロスになりそうな食品のフードバンクへの寄贈、組合員が参加して家庭の食品ロスを防ぐフードドライブ活動など、フードチェーン全体でアクションを進めています。	取組紹介ページ
	生活協同組合コープみらい	◆	サステナウィーク特設サイト	コープデリグループでは、サステナウィーク2024の期間中、特設ページを開設します。コープデリグループの提供する、食料や農林水産業の持続的な生産消費に関する各種サービスや取組みを通じて「未来へつなげるおかいもの」をご紹介します。
◆		1週間にもう1杯お米を食べよう～ワン・モア・ライス～	コープデリグループでは、一人ひとりが無理なくちょっとずつお米を食べる量を増やして、お米の生産者を応援する「1週間にもう1杯お米を食べよう ワン・モア・ライス」に取り組んでいます。お米の消費量が減り続け、さらに生産コストの上昇や生産者の高齢化・後継者不足など、日本のお米づくりは多くの課題に直面しています。無理なく、気軽に手軽に、1週間に今よりも1食多くお米を食べることで、米農家の応援はもちろん、日本の田んぼを守り、食料自給力の維持・向上を目指しています。	取組紹介ページ
◆		産直はなゆき農場有機牛の取組み	私たちの食卓に並ぶお肉。「国産」のお肉であっても、飼料の大半は輸入に頼っており、牛肉の場合はわずか9%です。また国内の生産者は高齢化し、後継者が不足しています。日本の畜産業は今、「低い飼料自給率」と「担い手不足」の課題に直面しています。コープデリでは、持続可能な食料生産を目指し「産直はなゆき農場有機牛」の取組みを通じて、「食料自給力の向上」と「担い手の育成」にチャレンジしています。サステナワード2023の動画もぜひご覧ください。	取組紹介ページ Youtube
◆		飼料用米の取組み～お米育ち豚プロジェクト	コープデリグループでは、「日本のお米づくりを守りたい」との想いから、2008年に「お米育ち豚プロジェクト」をスタートしました。飼料用のお米をつくり、そのお米で育てた産直豚肉を組合員へお届けしています。飼料の一部を国産の飼料用米に替えて、日本の農業・畜産業を元気にする取組みをすすめています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
◆		美ら島応援もずくプロジェクト	コープデリグループでは、「ウミガメが訪れる海と自然を守りたい」との想いから、2010年、「美ら島応援もずくプロジェクト」をスタートしました。沖縄県伊平屋島産もずくの売上げの一部を「美ら島応援基金」に寄付し、島の美しい自然環境を保護する活動に役立てています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
◆		佐渡トキ応援お米プロジェクト	コープデリグループでは、「生きものと共生できるお米づくりをささえたい」との想いから、2010年に「佐渡トキ応援お米プロジェクト」をスタートしました。CO・OP産直新潟佐渡コシヒカリとその加工品の売上げの一部を「佐渡市トキ環境整備基金」に寄付し、トキのエサ場となる田んぼづくりに役立てています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
◆		フードドライブもったいないをありがとうに	コープデリグループの会員生協では、店舗や組合員施設に専用の食品回収ボックスを設置したり、イベントで呼びかけたりして、個人が家庭などから持ち寄った食品をフードバンク等に寄贈するフードドライブ活動に取り組んでいます。一人でも多くの食品を必要とされる方へ支援を届けるために、地域のフードバンクとの連携を強化し、専用ボックスの設置場所を増やしています。	取組紹介ページ
◆		食品ロスを工夫して削減	商品の生産から製造・物流・消費までのフードチェーンの各段階で、食べられる食品が廃棄される食品ロス。コープコープデリグループでは、規格外農産品の取り扱いや商品の納品期限の延長、物流段階でロスになりそうな食品のフードバンクへの寄贈、組合員が参加して家庭の食品ロスを防ぐフードドライブ活動など、フードチェーン全体でアクションを進めています。	取組紹介ページ

千葉県

メンバー名	種類	取組名	取組内容	参照リンク先
チバニアン兼業農学校	★	ソーラーシェアリング	チバニアン兼業農学校では、営農型太陽光を通じて、炭素の排出を減らす取組を実施しています。	取組紹介ページ
	◆	Co2の吸着に大きな効果を持つ早生桐の講義及び普及を実施。	チバニアン兼業農学校では、首都圏サラリーマンの就農を通じて、持続可能な取り組みも同時に行います。地球を大事にすることも人間にとって重要なことだからです。	取組紹介ページ

東京都

メンバー名	種類	取組名	取組内容	参照リンク先
あふ食堂	★	持続可能な水産物を使ったメニューの提供	農林水産省本館B1にある、あふ食堂では、9/24から9/27に持続可能な水産物（MEL認証）を使ったメニュー「カツオのたたき」の提供を行います。農林水産省食堂は、一般の方もご利用できます。	取組紹介ページ①
				取組紹介ページ②
株式会社インユー	●	IN YOU MARKET	IN YOU MARKETでは、オーガニックを通じて、環境保護、社会的責任、人々の健康に貢献することを使命としています。私たちは、オーガニック製品を厳選し、消費者が安心できる本質的選択肢を提供しています。農薬や、添加物、化学物質を使用しない製品や、人々の健康をサポートする情報を提供するなどし、消費者のより良い暮らしを促進する活動に積極的に取り組んでいます。	取組紹介ページ
株式会社コトリコ	◆	サステナブル×地域と農とデザイン	株式会社コトリコは、「デザイン」の力で「地域と農が共に支え合う関係づくり」を目指しています。生産者様や行政、支援機関などの皆様とタッグを組み、商品やプロジェクトの“価値”をデザインに乗せて社会へとアプローチします。地域の伝統、環境、農産物、人材などには、その地域の“虜”になるきっかけが数多く存在します。国内外のあらゆるサステナブルチェンジに貢献すべく啓発活動にも力を入れて、皆様の「小さな一歩」を後押しいたします。	取組紹介ページ note Youtube Instagram
株式会社日清製粉グループ本社	◆	サステナブル・シーフードを社員食堂で	日清製粉グループでは食事を通じて水産資源の枯渇という社会課題に触れ、日常生活での消費行動の変容に繋げてもらう取り組みの一つとして、本社地区の社員食堂で「MSC/ASC Coc認証」を取得し、「サステナブル・シーフード」を使用したメニューの提供をしています。	取組紹介ページ
株式会社日本アクセス 広報・サステナビリティ推進部	●	冷凍ミールキット「ストックキッチン」の展開	株式会社日本アクセスで2019年にスタートした冷凍ミールキット「ストックキッチン」は、ごみが少ないオールインワンタイプ。食材も使い切りなので、消費者側での食材廃棄が削減できます。また、冷凍で販売期間が長いので、流通上のロスも少なく、顧客ニーズ・マーケットへの対応と同時に食品ロス削減への貢献が期待されます。	取組紹介ページ
	★	社内におけるフードドライブの実施	株式会社日本アクセスでは、自社社員にはたらきかけて社内で家庭で余っている食べ物を持ち寄るフードドライブを実施します。当社の労働組合と協働して他エリアにも協力を依頼します。集まった食品は、当社が継続的に取組を行っているフードバンク様に寄贈し、パントリー活動などに役立てていただきます。	取組紹介ページ
	●	からだにも環境にもやさしい商品の紹介	株式会社日本アクセスでは、手軽に栄養バランスを整え、健康的で美味しい食生活を楽しめる、当社『からだスマイルプロジェクト』にプラントベースミート（大豆ミート）を使用した商品が登場します。からだにもスマイル、環境にもスマイルな2商品をご紹介します。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
株式会社トップス	◆	製造工場における廃棄ロス削減のための飼料化推進	株式会社トップスでは、洋生菓子を製造している工場において、スポンジの切り落とし部分をはじめとする製造工程での廃棄ロスについて、飼料化を行う業者と提携して削減に取り組んでいます。	
株式会社森の環	★	高校生と農業と地方を考える	株式会社森の環では、(都市と地方を考える)高校生のゼミ生と連携して、地区イベントや高校文化祭を通じ農業と地方を考える契機としています。	
キリンホールディングス株式会社	●	キリンスクールチャレンジ開催	キリンホールディングス株式会社では、2014年から、中高生向けの1日ワークショップ「キリン・スクール・チャレンジ」を毎年開催しています。ワークショップでは、こども国連と共同開催で、持続可能な林業(FSC認証支援)と持続可能な農業(レインフォレスト・アライアンス認証支援)の取り組みを紹介し、中高生に自ら自分たちが考えて未来に向けたアクションを同世代に発信してもらえるような構成としています。	
日本航空株式会社	●	規格外の野菜を使用した凸凹スープ	日本航空株式会社では、歩留まり改善や調理残渣のリサイクルなどの自社の食品廃棄の削減だけでなく、サプライチェーンでの食品廃棄削減にも取り組んでいます。サプライチェーンでは、例えばブロッコリーやアスパラガスの茎、玉ねぎの皮などは、調理を工夫することで美味しく食べられるにもかかわらず「非可食部」として廃棄されています。また生産者が愛情を込めて育てたにもかかわらず、大きさや形などが理由で「規格外」として廃棄されてしまいます。私たちは非可食部や規格外の作物を使用し調理を工夫することで、サプライチェーンの食品廃棄削減に取り組んでいます。これらは凸凹スープ(“Farmer’s Soup”)というメニューで、羽田・成田のラウンジにて提供しています。現在、規格外の枝豆を使用しています。今後は、さつまいも、蓮根、生姜、葱など、何れも規格外の野菜を使ったスープを順次予定しています。ラウンジをご利用の際はぜひご賞味ください。	取組紹介ページ（日本語） 取組紹介ページ（英語）

マルハニチロ株式会社	◆	持続可能な認証水産物の取扱を推進	マルハニチロ株式会社では、持続可能な認証の水産物の取扱いを積極的に進めており、MSC「海のエコラベル」やASCラベルを表示した製品などを取り扱っています。お客様が水産資源と環境に配慮し適切に管理された持続可能な漁業で獲られた天然の水産物の証であるMSC「海のエコラベル」や、責任ある養殖水産物の証であるASCラベルを表示した製品を選ぶことは、海洋環境や水産資源を守るにつながります。2024年9月には、2030年度の水産物取扱い部門の売上金額の内、15%をMSCやASCに代表される国際的に認められた持続可能な認証由来の水産物をお客様にお届けすることを目標として掲げました。お客様とともにSDGsゴール12の「つくる責任、つかう責任」、14の「海の豊かさを守ろう」の達成に貢献し、持続可能な消費の実現をめざしていきます。	取組紹介ページ
	◆	水産資源調査の実施	海をルーツに140余年の歴史を持つマルハニチロ株式会社グループは、かけがえのない自然の恵みとその生命力に支えられて成長を続けてきました。将来世代に水産資源を持続可能な状態で受け継いでいくために、取扱水産資源の管理状態についての調査を実施しています。2021年度の水産物の取扱いの内71%は一定の管理がされていましたが、残りの29%はデータが不足していたり、管理状態に改善が必要なものであることがわかりました。定期的な調査により、取り扱う水産物の管理状態の把握を目指しています。把握をした上で、絶滅の恐れのあるものや、長期間にわたり管理状態が改善されない物で乱獲などが懸念されるものについては、取扱いの中止を検討したり、資源状態の改善に資する取組みなどを働きかけていきます。	取組紹介ページ
有限会社昭和食品	◆	塩鮭を頭から尻尾まで、丸々使う！	鮭は日本人にとって、馴染み深い魚です。今も秋になれば、北海道には多くの鮭が帰還し、私たちの食卓に彩りを添えてくれます。有限会社昭和食品では、鮭専門店を営み、長く鮭と親しんできました。その経験から、鮭をまるまる一尾無駄にせず、料理し尽くす方法をご紹介します。	取組紹介ページ
MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社 サステナビリティ推進部	◆	屋上菜園での環境にやさしい方法での野菜栽培	三井住友海上火災保険株式会社では、駿河台ビルの屋上菜園25区画を地域の方や社員に貸し出しています。土壌調査に基づく最小限度の有機肥料と有機JAS規格に定められた有機農薬のみ使用することで、生物多様性に配慮した運営を行っています。利用者への実際の栽培指導・講習は提携の団体が実施しています。2023年度から対面指導が復活し、利用者が思い思いの野菜の栽培・収穫を行っています。	取組紹介ページ
	◆	社員食堂でのサステナブルシーフード取組み	三井住友海上火災保険株式会社では、2019年10月より駿河台ビル、2020年8月より千葉ニュータウンセンターの社員食堂において、サステナブル・シーフードを導入しました。毎月「サステナブル・シーフードデー」を設け、食堂利用者にサステナブル・シーフードを使ったメニューを提供しています。新型コロナで在宅勤務が多くなった時期も、サステナブル・シーフードの提供を継続していました。社員自らが「食する」ことで、自社のサステナビリティ取組を実感するとともに、自ら消費行動を変革することで、持続可能な社会の実現にも貢献していきます。	取組紹介ページ

神奈川県

メンバー名	種類	取組名	取組内容	参照リンク先
フィード・ワン株式会社	◆	食育講習会の開催・食育サイトの公開	フィード・ワン株式会社では、毎年、地域の小・中・高校生を対象として食育講習会を開催し、「食の正しい知識」と「食の大切さ」を楽しく学ぶ機会を設けています。また、自社ホームページの「フィード・ワンを知る・学ぶ」において、畜水産物を選択するための知識を提供しています。国産・輸入品との違い、天然・養殖との違い、栄養等に関する知識を若い年代の方々に伝えることで、自身で食を選択する力や健康への意識等を養うお手伝いをしています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
	◆	持続可能な養殖業実現に向けた取組み	フィード・ワン株式会社では、天然の海洋資源に頼らない無魚粉飼料を発売しました。世界的な天然の海洋資源の枯渇問題が深刻化する中、一般的な養殖用の飼料は天然魚から生成する魚粉を主な原料として使用しています。当社が開発した「無魚粉飼料」は天然資源を使用しておらず、持続可能な養殖業実現の一助となっています。	取組紹介ページ Youtube
	◆	牛乳消費拡大への取組み	フィード・ワン株式会社では、学校の長期休暇中など、牛乳の消費量が落ち込む時期の取組みとして、社内での呼びかけや、フードバンクへの寄付、自社食育サイトでの牛乳コンテンツ公開・レシピの紹介などを行い、牛乳消費量の拡大に協力しています。また、X公式アカウントにおいて牛乳消費促進を応援する動画を発信しています。その他、本社及び全国の支店において、その地域で生産された牛乳（常温保存可能牛乳）を購入し、来客の際にお出しするなど、牛乳の消費促進を応援しています。	取組紹介ページ X投稿① X投稿②

北陸・信越

石川県

メンバー名	種類	取組名	取組内容	参照リンク先
特定非営利活動法人アグリファイブ	◆	畑を食べ尽くそう!	特定非営利活動法人アグリファイブでは、石川県の小さな八百屋は店のすぐ近くの自社農園で収穫した無農薬、化学肥料不使用の野菜を店頭で販売し、不恰好な野菜たちは店内のキッチンでランチや弁当として提供しています。畑からわずか200m。不恰好な野菜もそうでない野菜もすべて私たちは販売しています。地球が喜ぶ農と食のミライをつくる仕事を香土カグツチはやっています。	取組紹介ページ Facebook Instagram

新潟県

メンバー名	種類	取組名	取組内容	参照リンク先
生活協同組合コープデリにいがた	◆	サステナウィーク特設サイト	コープデリグループでは、サステナウィーク2024の期間中、特設ページを開設します。コープデリグループの提供する、食料や農林水産業の持続的な生産消費に関する各種サービスや取り組みを通じて「未来へつなげるおかいもの」をご紹介します。	取組紹介ページ
	◆	1週間にもう1杯お米を食べよう～ワン・モア・ライス～	コープデリグループでは、一人ひとりが無理なくちよとずお米を食べる量を増やして、お米の生産者を応援する「1週間にもう1杯お米を食べよう ワン・モア・ライス」に取り組んでいます。お米の消費量が減り続け、さらに生産コストの上昇や生産者の高齢化・後継者不足など、日本のお米づくりは多くの課題に直面しています。無理なく、気軽に手軽に、1週間に今よりも1食多くお米を食べることで、米農家の応援はもちろん、日本の田んぼを守り、食料自給力の維持・向上を目指しています。	取組紹介ページ
	◆	産直はなゆき農場有機牛の取り組み	私たちの食卓に並ぶお肉。「国産」のお肉であっても、飼料の大半は輸入に頼っており、牛肉の場合はわずか9%です。また国内の生産者は高齢化し、後継者が不足しています。日本の畜産業は今、「低い飼料自給率」と「担い手不足」の課題に直面しています。コープデリでは、持続可能な食料生産を目指し「産直はなゆき農場有機牛」の取り組みを通じて、「食料自給力の向上」と「担い手の育成」にチャレンジしています。サステナアワード2023の動画もぜひご覧ください。	取組紹介ページ Youtube
	◆	飼料用米の取組み～お米育ち豚プロジェクト	コープデリグループでは、「日本のお米づくりを守りたい」との思いから、2008年に「お米育ち豚プロジェクト」をスタートしました。飼料用のお米をつくり、そのお米で育てた産直豚肉を組合員へお届けしています。飼料の一部を国産の飼料用米に替えて、日本の農業・畜産業を元気にする取り組みをすすめています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
	◆	美ら島応援もずくプロジェクト	コープデリグループでは、「ウミガメが訪れる海と自然を守りたい」との思いから、2010年、「美ら島応援もずくプロジェクト」をスタートしました。沖縄県伊平屋島産もずくの売り上げの一部を「美ら島応援基金」に寄付し、島の美しい自然環境を保護する活動に役立っています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
	◆	佐渡トキ応援お米プロジェクト	コープデリグループでは、「生きものと共生できるお米づくりをささげたい」との思いから、2010年に「佐渡トキ応援お米プロジェクト」をスタートしました。CO・OP産直新潟佐渡コシヒカリとその加工品の売り上げの一部を「佐渡市トキ環境整備基金」に寄付し、トキのエサ場となる田んぼづくりに役立っています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
	◆	フードドライブもったいないをありがとうに	コープデリグループの会員生協では、店舗や組合員施設に専用の食品回収ボックスを設置したり、イベントで呼びかけたりして、個人が家庭などから持ち寄った食品をフードバンク等に寄贈するフードドライブ活動に取り組んでいます。一人でも多くの食品を必要とされる方へ支援を届けるために、地域のフードバンクとの連携を強化し、専用ボックスの設置場所を増やしています。	取組紹介ページ
	◆	食品ロスを工夫して削減	商品の生産から製造・物流・消費までのフードチェーンの各段階で、食べられる食品が廃棄される食品ロス。コープコープデリグループでは、規格外農産品の取り扱いや商品の納品期限の延長、物流段階でロスになりそうな食品のフードバンクへの寄贈、組合員が参加して家庭の食品ロスを防ぐフードドライブ活動など、フードチェーン全体でアクションを進めています。	取組紹介ページ

長野県

メンバー名	種類	取組名	取組内容	参照リンク先
北アルプスオーガニックプロジェクト	★	ハカリウリマルシェ2024 in 信濃大町	北アルプスオーガニックプロジェクトは持続可能な循環型社会の形成と環境に負荷の少ない有機農業を推進する有志でつくる市民団体です。空き瓶や袋など自分で持参し、必要なものを必要な分だけ購入できる、はかり売り、ばら売りでお買い物ができるハカリウリマルシェを毎年開催しています。こだわりの有機野菜・地域の農産物・焼菓子・ドリンク・ハチミツ・雑貨などの品々を地域の農家や事業者が、はかり売り・ばら売りをします。地元の木材で野菜箱づくり、放置林の竹で作る竹籠づくりのワークショップもあります。省資源を提案し、持続可能なライフスタイルを考えるきっかけになるようなマルシェを目指しています。	取組紹介ページ
キリンホールディングス株式会社	●	クララを挿し穂から育てて増やすオオルリジミの生態系を守る活動	キリンホールディングス株式会社では、オオルリジミの幼虫の唯一の食草であるクララを増やす活動を上田市立塩川小学校と実施します。梔子ヴィンヤード近郊の田のあぜから所有者の許可を取り、挿し穂を取り、苗を作り、8月末に校庭の花壇に植えて育て、来年の5月末にシャトー・メルシャン梔子ヴィンヤードの再生場所に植え付けます。アースウォッチのボランティアも実施します。	取組紹介ページ
生活協同組合コープながの	◆	サステナウィーク特設サイト	コープデリグループでは、サステナウィーク2024の期間中、特設ページを開設します。コープデリグループの提供する、食料や農林水産業の持続的な生産消費に関する各種サービスや取り組みを通じて「未来へつなげるおかいもの」をご紹介します。	取組紹介ページ
	◆	1週間にもう1杯お米を食べよう～ワン・モア・ライス～	コープデリグループでは、一人ひとりが無理なくちよとずつお米を食べる量を増やして、お米の生産者を応援する「1週間にもう1杯お米を食べよう ワン・モア・ライス」に取り組んでいます。お米の消費量が減り続け、さらに生産コストの上昇や生産者の高齢化・後継者不足など、日本のお米づくりは多くの課題に直面しています。無理なく、気軽に手軽に、1週間に今よりも1食多くお米を食べることで、米農家の応援はもちろん、日本の田んぼを守り、食料自給力の維持・向上を目指しています。	取組紹介ページ
	◆	産直はなゆき農場有機牛の取り組み	私たちの食卓に並ぶお肉。「国産」のお肉であっても、飼料の大半は輸入に頼っており、牛肉の場合はわずか9%です。また国内の生産者は高齢化し、後継者が不足しています。日本の畜産業は今、「低い飼料自給率」と「担い手不足」の課題に直面しています。コープデリでは、持続可能な食料生産を目指し「産直はなゆき農場有機牛」の取り組みを通じて、「食料自給力の向上」と「担い手の育成」にチャレンジしています。サステナワード2023の動画もぜひご覧ください。	取組紹介ページ Youtube
	◆	飼料用米の取組み～お米育ち豚プロジェクト	コープデリグループでは、「日本のお米づくりを守りたい」との思いから、2008年に「お米育ち豚プロジェクト」をスタートしました。飼料用のお米をつくり、そのお米で育てた産直豚肉を組合員へお届けしています。飼料の一部を国産の飼料用米に替えて、日本の農業・畜産業を元気にする取り組みをすすめています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
	◆	美ら島応援もずくプロジェクト	コープデリグループでは、「ウミガメが訪れる海と自然を守りたい」との思いから、2010年、「美ら島応援もずくプロジェクト」をスタートしました。沖縄県伊平屋島産もずくの売り上げの一部を「美ら島応援基金」に寄付し、島の美しい自然環境を保護する活動に役立っています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
	◆	佐渡トキ応援お米プロジェクト	コープデリグループでは、「生きものと共生できるお米づくりをささえたい」との思いから、2010年に「佐渡トキ応援お米プロジェクト」をスタートしました。CO・OP産直新潟佐渡コシヒカリとその加工品の売り上げの一部を「佐渡市トキ環境整備基金」に寄付し、トキのエサ場となる田んぼづくりに役立っています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
	◆	フードドライブもったいないをありがとうに	コープデリグループの会員生協では、店舗や組合員施設に専用の食品回収ボックスを設置したり、イベントで呼びかけたりして、個人が家庭などから持ち寄った食品をフードバンク等に寄贈するフードドライブ活動に取り組んでいます。一人でも多くの食品を必要とされる方へ支援を届けるために、地域のフードバンクとの連携を強化し、専用ボックスの設置場所を増やしています。	取組紹介ページ
	◆	食品ロスを工夫して削減	商品の生産から製造・物流・消費までのフードチェーンの各段階で、食べられる食品が廃棄される食品ロス。コープコープデリグループでは、規格外農産物の取り扱いや商品の納品期限の延長、物流段階でロスになりそうな食品のフードバンクへの寄贈、組合員が参加して家庭の食品ロスを防ぐフードドライブ活動など、フードチェーン全体でアクションを進めています。	取組紹介ページ

公立大学法人長野県立大学	★	「朝ごはん健康づくり」の取り組み	公立大学法人長野県立大学健康発達学部の今村晴彦ゼミ3年生が、西後町のR-DEPOTカフェで地域住民に朝ごはんを提供するプロジェクトを開始しました。朝食の欠食や孤食が課題となっている中、学生たちは地域の健康づくりとコミュニティの活性化を目指しています。 初回は2024年7月27日（土）に実施され、信州産の食材を使用したメニューを試験的に安価で提供しました。参加者からは「楽しい時間を過ごせた」「久しぶりにしっかり朝食が食べられた」との声がありました。	取組紹介ページ Instagram
	●	ヘルシーなくるみ菓子の考案	公立大学法人長野県立大学健康発達学部食健康学科の今村晴彦ゼミに所属する4年生3人が、7月25日に東御市で開催された日本くるみ会議例会で、おからと東御市の特産品であるくるみを使ったお菓子「ソイくるみバー」を提案し、試食会を実施しました。このくるみ菓子は、市の健康づくり推進員活動を支援するゼミ活動の一環として考案されたもので、試作には戸井田英子助手の支援も受けています。7月4日に学内で実施した試食会では、用意した約130食分が10分でなくなるなど、高い関心が寄せられました。	取組紹介ページ
	◆	サステナブルアーカイブ	公立大学法人長野県立大学では、サステナブルな取り組みに関するアーカイブコンテンツ（動画等）を公開しています。	取組紹介ページ
	★	CSI公開講座「緑を活かすイノベーション」	公立大学法人長野県立大学では、長野市の利用されていない中山間地の土地を使ってどのような事業ができるか、森林課題の解決に取り組むTeam Yamashoと現地訪問をしながら事業プランを考え実施するワークショップを行っています。vol.2は9月28日（土）実施予定です。	取組紹介ページ
	★	第3回長野県立大学 SDGs・地域貢献アイデアコンペティション	公立大学法人長野県立大学の大学生の自由な発想と豊かな着想による学内外でのSDGsの実現や地域の活性化・発展に向けた活動を推進することを目的として、企業のご支援により令和4年から「長野県立大学 SDGs・地域貢献アイデアコンペティション」を開催しています。	取組紹介ページ

富山県

メンバー名	種類	取組名	取組内容	参照リンク先
株式会社森の環	◆	未利用資源を活用した循環型農業への挑戦	株式会社森の環では、しいたけを主体に菌床キノコを年間1, 100t程度生産販売をしていますが、菌床の材料として木材のおが粉やチップを同量程度使用しています。収穫後の菌床は産業廃棄物として有効利用がされてきませんでしたが、耕作放棄地に戻す取り組みを始めています。今後は、廃菌床はじめ耕作放棄地や放置竹林、食品残渣、農業残渣、家畜糞尿など未利用資源を活用した新しい循環型農業に挑戦しています。	取組紹介ページ
株式会社森の環	★	(きのこの摘み取り収穫) 体験を通じた食農教育	株式会社森の環では、富山県が中心に主催される【とやまグルメ・フードフェス2024】の体験イベントに出展して、農業体験とともに農業について知る契機としています。	

東海

愛知県

メンバー名	種類	取組名	取組内容	参照リンク先
株式会社おとうふ工房いしかわ	★	枝豆収穫食育体験	株式会社おとうふ工房いしかわでは、企業理念の一つである「日本の農業を応援したい」という思いのもと、国産大豆のみを使用しています。国産大豆を年間約3, 300t使用し、そのうち契約栽培数量は約2, 500tと、国産大豆のみを使用した豆腐製造業としては国内トップシェアを誇り、国内農業の持続可能な生産支援の一助として尽力しています。さらに地域の子どもたちを対象に食を通じて子ども達に生きる力を育てほしいという思いから、食育活動を行うべく食育ボランティアサークル「だいきっず倶楽部」を創設しました。「食」を通じて「共育」をテーマに、家族や地域とのつながりを深めながら、大豆の栽培から調理まで「自分で作って食べる」ことを基本とした「だいきっずプロジェクト」を通して、子どもたちへの体験活動を開始しました。今回は枝豆収穫とその枝豆を使った調理体験を通して子どもたちに食育活動を行います。	
つむぎて農園	●	自然栽培でのお野菜と米の栽培	つむぎて農園では、自然栽培でのお野菜と米の栽培をしています。温室効果ガス削減（見える化）の農産物の栽培および、地域資源を活用した農業を行っています。生物多様性として草や生き物が生息しやすい環境を作ることで、生態系を維持します。また、そのおかげで土壌の腐植がふえ、様々な微生物が生息する土壌環境になっていきます。	取組紹介ページ
つむぎて農園	●	地産地消のカフェメニュー	つむぎて農園では、農家カフェを経営しています。自社農園と地元の農家さんから仕入れたお野菜やお肉を中心としたランチとお弁当を提供しています。規格外のお野菜などを積極的にメニューに使っています。ごみ削減のため、生ごみコンポストを使いながら、資源の循環を心掛けています。	取組紹介ページ
マミ리카ズ	◆	日本みつばちの保護活動	マミ리카ズでは、Instagram、Facebook、xで日本みつばちの状況を報告しています。在来種の日本みつばちの養蜂活動を通じて生物多様性の保全に努めています。	X Instagram

静岡県

メンバー名	種類	取組名	取組内容	参照リンク先
一般社団法人おから再活研究所	◆	サステナブルに関するおからポの取り組み	一般社団法人おから再活研究所では、廃棄される食品を生まれ変わらせる、無益なものを有益に変える、をコンセプトに活動をしています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②

三重県

メンバー名	種類	取組名	取組内容	参照リンク先
とば実	◆	無肥料で有機JAS栽培	とば実では、無肥料で有機JAS栽培に取り組み、CO2の排出を減らし、肥料などの資材を海外から輸入するのではなく、農場内部の草による光合成で自己完結的な生産を可能にします。	取組紹介ページ

近畿

大阪府

メンバー名	種類	取組名	取組内容	参照リンク先
大阪いずみ市民生活協同組合	◆	コープのお店での「フードドライブ」のとりくみ	大阪いずみ市民生活協同組合では、家庭であまっている食品を持ち寄り、フードバンクを通じて、子ども食堂や福祉施設、ボランティア団体などに寄付しています。店舗サービスコーナー付近に常設している専用ボックスにて受け付けています。ご提供いただきたい食品の条件等についてはHPをご確認ください。	取組紹介ページ
	◆	「食品リサイクル・ループ」のとりくみ	大阪いずみ市民生活協同組合では、店舗の売れ残りや宅配の農産加工室などから出る食品廃棄物を、たい肥にリサイクルし、畑で野菜作りに利用して、できた野菜をコープの店舗や宅配で販売するループを作り、まわしています。こうした枠組みの中での再資源化率は78%です。(2023年度実績)	取組紹介ページ
株式会社サンブラザ	●	温室効果ガスの見える化と削減への取り組み	株式会社サンブラザでは、地元の生産者様と協力し、トマト・きゅうり・なす・玉ねぎ・白ねぎ・みかん等で温室効果ガス削減の見える化ラベルを取得し、売場で展開するとともにお客様への訴求も行なうことで温室効果ガス削減に繋がる取り組みを実施します。さらにサステナウィーク期間中にはより積極的にお客様に情報をお伝えします。	取組紹介ページ

京都府

メンバー名	種類	取組名	取組内容	参照リンク先
クオックロップ株式会社	★	プラントベースクッキングクラスのエコスコアリング	クオックロップ株式会社は、食と農の分野を中心に、エコスコアを可視化し、価値創造へとつなげる「Myエコものさし」をご提供しています。株式会社ABCサステナテーブルの、プラントベースを基本に若い世代と共に『食の価値』を考える環境配慮型クッキングクラスとコラボレーションを実施しています。8月には、地球環境にやさしい方法で栽培された京野菜を地元農家さんとの連携で仕入れた温野菜や、京都産の抹茶を利用した豆乳ラテを提供するプラントベースクッキングクラスをインバウンド観光客を対象に開催しました。ABCサステナテーブルの学生アンバサダーが海外からの参加者をサポートし、Myエコものさしで地産材料を使ったメニューがどれだけ脱炭素に貢献しているかを数値で可視化しました。参加者には、おいしく楽しく環境に貢献する体験をしていただき、今後も、環境への貢献を可視化したクッキングクラスを継続して開催します。	取組紹介ページ Instagram
日本農業株式会社 たんとスープ・たんとファーム	★	「たんとファーム」みんなで有機農業実践	日本農業株式会社たんとファームは、京都府南丹市の蛸が飛び交う自然豊かな里山にあります。自然や生き物を大切に、農薬や化学肥料を使わずにお野菜を作っています。わたしたちは、人と地球の健康を考えながら、有機農業に取り組んでいます。自然豊かな農地で種を蒔き、土・水・太陽などの自然の中で野菜を育てる循環型の農業を実践することで、土中にある微生物が増え、土が肥沃になります。おいしい野菜はわたしたちを幸せに健康にしたりすることはもちろん、地球を覆っている土に生物多様性が生まれると、陸や海の豊かさにも繋がります。たんとファームのお野菜は、たんとスープとしてお客様にお届けするだけでなく、飲食店様や個人様にもお買い求めいただけます。「これからの日本の未来のために、農業就農者を増やしたい」そんな思いで、毎月不定期ですが有機農業実践として参加者を募集しています。年々仲間も増え、様々な事に挑戦しています。一度ご参加ください。	取組紹介ページ

兵庫県

メンバー名	種類	取組名	取組内容	参照リンク先
株式会社日清製粉グループ本社	◆	パティシエを目指すチャレンジドを支援	日清製粉株式会社は年齢や性別、障がい、文化等の違いにかかわらず、一人ひとりが持てる力を発揮し活動できるユニバーサル社会の実現に貢献するため、パティシエを目指すチャレンジド（障がいのある方）を支援するプロジェクト「神戸スイーツ・コンソーシアム（KSC）」を、2008年より社会福祉法人プロップ・ステーションと共催で実施しています。本年度は、東京、神戸のほか、本年発生した能登半島地震からの復興への願いを込めて金沢でも講習会を開催します。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②

中国

山口県

メンバー名	種類	取組名	取組内容	参照リンク先
株式会社ニッスイ	◆	アップサイクル官民連携事業に参加	株式会社ニッスイは、2021年度より山口県と株式会社丸久およびテラサイクルジャパン合同会社などと、官民連携事業"ONE FOR OCEAN"に取り組んでいます。"ONE FOR OCEAN"は、山口県の海岸清掃で回収された海洋プラスチックごみを買い物かごにアップサイクルすることを通じて海洋ごみ問題の認知を図ることを目的としています。清掃活動で回収された海洋プラスチックの一部を使用した「アップサイクル買い物かご」が、丸久グループ店舗や道の駅など県内14か所で使用されています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②

九州

福岡県

メンバー名	種類	取組名	取組内容	参照リンク先
NPO法人博多ミツバチプロジェクト	◆	ミツバチは自然のヒーロー！！	NPO法人博多ミツバチプロジェクトは、日本ミツバチを通じて、子供たちと一緒に環境の大切さを学び、豊かな自然を守ることの喜びを共有してきました。これまで、学校での出前授業や環境教育、総合教育地域など、様々な活動に取り組んできました。その結果、子供たちの環境に対する意識は高まり、地域の生物多様性も豊かになってきました。これからも、『あふの環プロジェクト』を通じて、地域住民の皆様と一緒に、ミツバチと人が共生できる持続可能な社会の実現を目指します。	取組紹介ページ
イオン九州株式会社	★	選ぼう、未来につながるお買い物	イオン九州株式会社では、これまで「あしたの九州にできること」に取り組んできました。九州のお客様とともに、より豊かでサステナブルな未来を創造する為に、「あふの環プロジェクト」での取り組みを通じて地域社会に貢献できるように推進しています。イオン九州では、2店舗でサステナブル商品の販売を含む「みえるらべる」の農産物PRを実施致します。 ・イオン福岡店 *日程：9月20日（金曜日）から23日（月曜日） *場所 農産前 *催事場時間10時～18時 内容：福岡県サステナブル商品の催事販売、*福岡県ワンヘルス認証商品の販売、*「みえるらべる」農産物のPRを致します ・イオン鹿児島店 日程：9月21日(土曜日)から23日（月曜日） *場所 花の広場 *時間10時～18時 内容：鹿児島県サステナブル商品の催事販売、*有機野菜・加工品の販売、*「みえるらべる」農産物のPRを致します。	

大分県

メンバー名	種類	取組名	取組内容	参照リンク先
NPO法人北九州・魚部	◆	LALALAおんせんごまつぼ♪ ～「人と温泉と生き物と」絶賛活動中！	NPO法人北九州・魚部では、以下の活動に取り組んでいます。【目的】「人と温泉と生き物と」をテーマに掲げ、世界有数の温泉都市から生き物にスポットライトを当てて、人と生き物（自然）の現代的な関わりのある方や面白さを探っていくチャレンジ。それと同時に「別府と言えば温泉と生き物！」となるように、町の（温泉の）新たな切り口の魅力開発、生き物文化の創造をしていくことを目指す。【内容】温泉水路の生き物、特に亀川温泉の暗きょ水路で約60年ぶりに再発見した温泉に住む微小巻貝オンセンゴマツボを素材に、各所との連携や協働、多種多様な形での調査研究や普及啓発を展開中。・従来、温泉と生き物と人を結びつけて、それを新たな街の魅力にしようなどという取組は無かったのでは？それを「温泉地の大親分」別府からユニークに続々展開！・実は地味に地道にマジメに調査研究！生息地での月例調査は2年以上継続中。・再発見地で地元と協働し、温泉付き空家を活用してオンセンゴマツボの名を冠した宿を開業！独自のオンセンゴマツボ聖地化計画であると同時に、「外の風＝旅人」を寂れた亀川に吹き込む誘引装置。・「生き物界限」にとどまらず、広く町のにぎわいや文化活動にも意図的に接続。イタリア修行10年のアコーディオン演奏家の作詞作曲&魚部少年少女創作のダンスによる、亀川オンセンゴマツボのテーマソング「LALALAおんせんごまつぼ♪」が誕生！	取組紹介ページ① 取組紹介ページ② Instagram

宮崎県

メンバー名	種類	取組名	取組内容	参照リンク先
株式会社杉本商店	◆	椎茸栽培で若々しく蘇る里山	株式会社杉本商店では、原木栽培干し椎茸を専門に扱っています。椎茸の原木栽培は、椎茸菌・クヌギ・人間・クワガタが協働で、生物多様性が豊かな里山の自然を作り上げています。森全体のCO2吸収力を高め、土壌の保水力が向上し、洪水の緩和や水質の浄化に大きく寄与します。間伐を通じて森の密度を適切に管理することで、暗く過密な森を明るく多様な生態系を持つ里山へと若々しく蘇らせていきます。このプロセスは、人間と自然が共に生きるための重要な活動であり、里山文化の核心とも言えます。椎茸菌：美味しく身体に良い椎茸を実らせて、人間が間伐で里山を維持する情熱を与えます。クヌギ：切り株から自然と発芽して成長するので、伐採しても約15年で里山を再生します。人間：間伐という労力を提供して里山の生物多様性を持続していきます。クワガタ：用役済み原木を噛み砕いて発酵させ良質な土壌に還し、森林再生に深く関与します。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②

全国

メンバー名	種類	取組名	取組内容	参照リンク先
アカウントエージェント株式会社	◆	取組みに関してWebサイト上で発信	アカウントエージェント株式会社では、温室効果ガス排出量の削減を最重要課題とし、再生可能エネルギーの導入拡大や省エネ設備への投資を進めています。社用車の電気自動車化や、テレワークの推進によるオフィススペース縮小で、エネルギー消費を抑制。製品設計段階から環境負荷を考慮し、原材料調達から製造、輸送、使用、廃棄までのライフサイクル全体でCO2排出量を最小化しています。サプライチェーン全体での取組みも重要で、取引先と協力して環境基準を設定・遵守しています。また、循環型経済への移行を目指し、製品のリサイクル性向上や修理サービスの拡充で廃棄物を削減。社内教育を通じて従業員の環境意識を高め、日々の業務でのエコ活動を促進しています。環境保護団体との協働や植林活動など、地域社会と連携した取組みも実施し、これらの活動の進捗や成果を定期的に測定・公開し、透明性を確保。長期的な視点で継続的に改善を重ね、持続可能な社会の実現に貢献しています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
一般社団法人MEL協議会	★	MELを通して私たちにできること	一般社団法人MEL協議会では、国際的に認められている日本発の水産エコラベルであるMEL認証（メル）を通して能動的にSDGsやカーボンニュートラルに貢献できることを出前授業やおやこ教室を通して多くの子どもたちにお話しします。	取組紹介ページ Instagram
	◆	MELアンバサダーの取組み	一般社団法人MEL協議会では、MELを応援して下さるアンバサダーを公募しMEL認証水産物の試食やMELの出展イベントへ参加しMELの発信をSNS上でしてもらっています。	Instagram Youtube

一般社団法人日本協同組合連携機構	★	農産物直売所を拠点にした持続可能な食と農に関する食育活動	一般社団法人日本協同組合連携機構では、食と農の活動集積拠点である農産物直売所で、生産者と消費者をつなぎ、持続可能な地域づくりを目指します。食育活動を通じて、食品ロスの削減や地域の食文化の継承、環境に優しい農業の実現に取り組んでいます。	
	●	食と農をつなぐ人材育成「食育ソムリエ養成講座」	一般社団法人日本協同組合連携機構では、食と農の懸け橋となる人材を育成する「食育ソムリエ養成講座」を実施しています。食育活動を通じて食と農に関する様々な課題の解決に取り組めます。	取組紹介ページ
一般社団法人日本有機資源協会	◆	国産バイオ液肥の利用拡大	バイオ液肥とは、家畜排せつ物、食品廃棄物、下水汚泥などの有機性廃棄物等の原料バイオマスを、微生物の働きを用いたメタン発酵により発酵・分解することで得られる有機液体肥料のことです。原料供給者、製造者、利用者それぞれにメリットがあります。 一般社団法人日本有機資源協会では、今年度、相談室の運営、バイオ液肥の製造、メタン発酵システム全般、バイオ液肥の成分・特性、バイオ液肥の施用方法（時期、場所、運搬・散布車両、散布装置等）、バイオ液肥を固液分離した固分の堆肥または再生敷料としての利用、地域でバイオ液肥を活用するための計画づくりなどの相談を承ります。 先進事例集の発行 2023年度はメタン発酵施設からの情報をまとめ、2024年度はバイオ液肥利用農家の声をお届けします。 シンポジウム開催 バイオ液肥利用拡大のためのシンポジウムを、11月29日に馬事畜産会館（東京都中央区）で開催します。	取組紹介ページ
	●	バイオスマークを見つけよう！	“知ってるかい、バイオマスのこと。いじしえより、ずっと、ずっと、暮らしを支えてきた。化石資源の便利さに浮気しちゃったけど、今、逆襲のとき。バイオマスを使った商品をつくりだすプロジェクトが、全国各地で湧き出ている。バイオスマークは、環境への貢献をプッシュできる商品の目印。「つくりたい」、「つたえたい」、「つかいたい」を橋渡ししているんだ。街中でバイオスマークを見つけよう！「地球から伸びるクローバー」をデザインしているから、すぐにわかると思うよ。” 一般社団法人日本有機資源協会では、バイオスマーク認定商品を、WEBサイトで紹介しています！2024年度は、「サステナブル マテリアル展」（10/29～31；幕張メッセ）、「エコプロ」（12/4～6；東京ビッグサイト）に出展します。たくさんのバイオスマーク認定商品に出会えるので、ぜひご来場ください。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
エスピー食品株式会社	◆	自社SNSにて関連する記事を掲載	エスピー食品株式会社では、サステナウィーク期間に併せて、自社Facebook等のSNSでサステナウィークやサステナビリティに対するエスピー食品株式会社の取組に関する記事を掲載し、消費者の皆様のサステナビリティに対する関心を高める取組を行います。	取組紹介ページ
	●	有機栽培、フェアトレードの取組み	エスピー食品株式会社では、有機JASおよび国際フェアトレード認証を受けた「ORGANIC SPICE」シリーズを切り口として、エスピー食品のスパイス＆ハーブの持続可能な調達や香辛料の産地との協働、サステナビリティへの取組みなどを紹介します。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ② 取組紹介ページ③
	●	社会環境の変化に対応した商品づくり	エスピー食品株式会社では、品質を長期間保持するパッケージによって賞味期間を延長し、食品ロスの発生を抑制した商品や、多様な属性や背景をお持ちのお客様も召し上がることができる食物アレルギー配慮商品やハラール認証商品など、エスピー食品の商品を通じた多様性や環境への取組みを紹介します。	取組紹介ページ
オイシックス・ラ・大地株式会社	★	〇×クイズで学ぶサステナブル！	オイシックス・ラ・大地株式会社では、参加するとサステナブルなことにちよっぴり詳しくなれるオンラインクイズイベントを開催します。サステナブルという言葉に、どんなモノやことを思い浮かべますか？「何か特別な知識が必要そう…」と感じている方は案外多いのではないのでしょうか？クイズを通してサステナブルなことにちよっぴり詳しくなったり、「実はサステナブルなアクションが出来ていた！」と再確認できるかもしれません！クイズは5問。〇か×でお答えください。クイズに参加した方の中から、抽選で30名様にフードロス解決ブランド「Upcycle by Oisix」よりアップサイクルのお菓子セットをプレゼントします。最後の問題まで答えると、応募フォームが出てきます。	取組紹介ページ
	●	Upcycle by Oisix	オイシックス・ラ・大地株式会社では、2021年よりこれまで未活用だった食材をアップサイクルしてお届けする「Upcycle by Oisix（アップサイクルバイオイシックス）」の商品を展開しています。「野菜のこの部分ってどんな味なの？」「捨てられる食材だけど、なんだかおいしそう！」そんなちよっぴりしたきっかけがフードロスのない世界に繋がっていくような取り組みを行っています。	取組紹介ページ
	●	ふぞろいRadish	オイシックス・ラ・大地株式会社の宅配ブランドらでいっしゅぼーや（創業1988年）では、持続可能な社会の実現を目指し2021年にフードロス削減と生産者支援のため『ふぞろいRadish』を始動させました。らでいっしゅぼーやが大切にしている「自然の恵みを次世代につなぐ」ことの地続きの活動として、従来の小売流通の概念にとらわれない多彩な規格外食材を展開し、サプライチェーンの上流から下流までの課題解決を目指します。	取組紹介ページ

オイシックス・ラ・大地株式会社	◆	産地と消費地をつなぐストーリー	オイシックス・ラ・大地株式会社では、1985年に日本で初めて有機農産物の宅配システムをスタートさせた大地を守る会の編集部が“顔の見える関係”を基本とし、産地と消費地をつなぐストーリーを、月刊誌「NEWS大地を守る」を通してお届けしています。オイシックス・ラ・大地株式会社では、1985年に日本で初めて有機農産物の宅配システムをスタートさせた大地を守る会の編集部が“顔の見える関係”を基本とし、産地と消費地をつなぐストーリーを、月刊誌「NEWS大地を守る」を通してお届けしています。	取組紹介ページ
	◆	Farble Online	オイシックス・ラ・大地株式会社では、環境や健康、安全などに関する情報を盛り込んだオンラインマガジン「Farble Online」で情報発信に取り組んでいます。Farm（畑）とTable（食卓）をつなぐかけ橋に。Far（遠い・未来）をable（できる）＝実現可能に。そんな思いをタイトルに込めています。食を通して見える風景、食を取り巻く社会課題にスポットをあて、食がつくる未来をより良いものにするため、畑と食卓をつなぐ者の責任として、「食のこれから」をお客さまと考えていきます。	取組紹介ページ
株式会社アースコーポレーション	●	GAP認証済み農産物の販売	GAP認証産地の育成と販売 株式会社アースコーポレーションでは、農家（産地）と共に作り共に販売する「共業生産」というコンセプトを持っています。GAP認証農場を増やすことで地球環境にやさしい農業が実現できます。また、認証を取っても販売がネックになっている産地が全国に多くあります。認証取得だけで終わらず、販売までトータルしてサポートすることで環境にやさしい農業をしながら、経営も強い産地作りをして美味しい野菜を全国に流通させています。	取組紹介ページ
株式会社だいちデイズ	●	転換期間中有機蒸し大豆の製造・販売	株式会社だいちデイズは、有機食品市場を活性化し、有機農業・有機農産物の需要拡大に取り組んでいます。転換期間中有機大豆を活用した蒸し大豆を製造・販売し、転換期間中有機大豆の啓蒙と使用を推進し、農地の有機化を応援しています。	取組紹介ページ
株式会社日清製粉グループ本社	◆	製品LCAを評価指標として導入	株式会社日清製粉ウエルナは、製品の原料調達から廃棄までの製品ライフサイクルにおける環境影響の算定手法「製品ライフサイクルアセスメント」を製品・施策の評価指標として、国内食品メーカーに先んじて導入しました。「パスタ乾麺」「パスタソース」「冷凍パスタ」「プレミックス」の4つの家庭用製品カテゴリーについて、第三者機関により妥当性評価を受けた算定方法を用いて、二酸化炭素相当量を算定しています。積極的に情報発信することで、消費者の皆様と共に持続可能な社会の実現を目指します。	取組紹介ページ
	◆	環境に配慮した製品づくり	株式会社日清製粉ウエルナでは、家庭でパスタをゆでる際のCO2排出量削減に貢献する商品やお肉に食感を模した植物性たん白の大豆ミートを使用した商品、バイオマス素材を使用したボトル容器の商品、包装を簡素化・包材を紙化した商品など、環境に配慮した製品を発売しています。	取組紹介ページ
	◆	余りがちな食材を活用したおいしいレシピ	株式会社日清製粉ウエルナでは、おうちの食材を捨てずに使い切って環境にもお財布にも優しい、エコロジーでエコノミーなお好み焼き＝「エコのみ焼」レシピなど、フードロス削減や食材活用、時短に繋がる簡単でおいしいレシピをお届けしています。	取組紹介ページ
	◆	製造工程の副産物を作物の栽培に活用	株式会社日清製粉グループのオリエンタル酵母工業株式会社では、製造工程で発生する副産物（パン酵母培養濃縮液など）を、肥料原料として作物の栽培に活かす取組みを農業法人と協働で進めています。従来の化学肥料を用いた栽培方法に比べ、地力が回復し、作物の根の張りが良くなり、収率や作物の香りが良くなることなどが報告されています。	取組紹介ページ
株式会社ニッスイ	●	プラスチック削減+独自のマーク「みらいの海へ」	2021年3月より、ニッスイグループではサプライチェーン全体でプラスチックの削減に取り組んでいます。製品の容器包装においては、2030年までにプラスチック使用量30%削減を目標に、商品保護や品質保持といった本来の機能を維持しながら、包材のサイズ縮小やフィルムの薄肉化、素材の見直しやトレース等の、限られた資源の持続的な利用を進めています。例えば、大きな大きな焼きおにぎりは2021年1月にプラスチックトレイを薄肉化し、年間約7トンの削減につながりました。環境配慮に対するニッスイの取組みを広く理解いただくとともに、お客様が環境に配慮した商品を選択できるよう、独自のマーク「みらいの海へ」を商品パッケージに表示しています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
	◆	食品の寄贈で広がる笑顔	株式会社ニッスイでは、品質に問題はないものの販売に適さなくなった商品をNPO法人へ寄贈し、支援の必要な人々に提供しています。この活動は2008年から開始し、提供している量は年間約6トンにもなります。主な提供品は冷凍食品や缶詰などで、児童養護施設や母子支援施設などの福祉施設に届けられており、喜びのお声をいただいております。本来なら食べられる食品の廃棄削減につながるこの活動を、今後も継続的に行っていきます。	取組紹介ページ
	●	水産エコラベルの使用拡大	ニッスイグループでは豊かな海を守り、水産資源の持続可能性向上を図る主な施策の一つとして、ASC認証やMSC認証などの取得と、これらの水産エコラベルを表示した水産物の活用に取り組んでいます。2024年8月、MSC認証水産物を国内で多く取り扱った功績が認められ、MSCジャパン・アワード2024を受賞しました。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②

株式会社ニッスイ	◆	廃棄米を使った紙ファイルの作成	株式会社ニッスイでは、フードロス削減に向けた従業員への意識啓発の一環として、廃棄米を原料とした紙ファイルを作成しました。ニッスイの各部署から、未熟米、虫食い米、食用に適さない古米、賞味期限切れの災害用備蓄米、工場の選別工程で排除された米など、廃棄される米を集めました。作成した紙ファイルは、グループ会社を含めた全従業員に配布し、「少しでも無駄になるお米を減らしたい。」という思いを共有しました。	取組紹介ページ
カルビー株式会社 サステナビリティ推進本部 サステナビリティ推進部	◆	スタンドパック商品のチャック削減の取組み	カルビー株式会社では、お客様アンケートの結果、食べきりサイズのスタンドパック商品におけるチャックの使用頻度が50%未満の一部商品を対象に、チャックのない新包装形態へ2024年6月から順次切り替えを行いました。この取組みにより、年間約40トンの石油由来プラスチック使用量の削減を見込んでいます。今後もプラスチック資源循環の推進を強化し、循環型社会の実現に貢献していきます。	取組紹介ページ
	◆	小学生向け「ポテトチップスから学ぼう！未来へつなぐ食料生産」	カルビー株式会社では、小学生向け新教材「ポテトチップスから学ぼう！未来へつなぐ食料生産」を(株)ARROWSと共同で2024年4月から提供を開始しています。小学5年生の社会科の授業で活用いただけます。身近な「ポテトチップス」の原料となるジャガイモやパーム油を題材に、持続可能な食料生産について楽しく学び、食の未来のために今日からできることを、児童一人ひとりが主体的に考え、行動するきっかけをつくる内容となっています。	取組紹介ページ
昭和産業株式会社	◆	気候変動への対応	CO2削減（TCFD提言への対応） 昨今、気候変動が社会、企業活動に与える影響は非常に大きくなっています。昭和産業株式会社グループは「穀物ソリューション・カンパニー」として、大地の恵みである穀物を多種多量に扱っており、特に気候変動は社会が直面し、対応が急務である重要な課題の一つとして認識しています。当社グループは、TCFD提言に沿って「ガバナンス」、「戦略」、「リスク管理」、「指標と目標」の4項目の情報開示を進め、ステークホルダーの皆様と積極的な対話を図っていきます。	取組紹介ページ
	◆	環境負荷の低減	地球環境の悪化は、昭和産業株式会社グループの主原料である穀物調達における大きなリスクであり、環境負荷低減に向けた取組みは当社グループのマテリアリティの一つです。「昭和産業グループ環境目標」の確実な達成に向け、「中期経営計画23-25」の最終年度となる2025年度の目標値を設定しました。「CO2排出量削減」、「食品ロス削減」「水使用量削減（原単位）」に加えて、環境への取組みを加速させるため、4つ目の環境目標として新たに「プラスチック使用量削減（原単位）」の目標を設定しました。	取組紹介ページ
	◆	スマートプラスチックアクション	地球環境問題に思いを込めて 昭和産業株式会社では様々な取組みを行っています。水分や酸素を通しにくく、軽くて丈夫で加工しやすいことから、幅広い用途で使われているプラスチック。スーパーやコンビニで配られるレジ袋もその一つですが、昭和産業株式会社でもプラスチックをパッケージに使用している商品は少ないとは言えず、これらの多くは使い終わったら“ごみ”となり、環境に負荷を与えていることは否めません。そこで、昭和産業株式会社ではパッケージの環境負荷をできるだけ少なくすることを目指し、環境に配慮したパッケージを開発したり、社員にオリジナルエコバッグを配布するなどの活動を行っています。また、農林水産省の「プラスチック資源循環アクション宣言」に参加し、廃棄物の再資源化や地域の清掃活動の3R（Reduce リデュース、Reuse リユース、Recycle リサイクル）などの推進活動にも取り組んでいます。	取組紹介ページ
	◆	食品リサイクル率99.9%の取組み	昭和産業株式会社は1936年の創立以来、大地の恵みである小麦、大豆、菜種、トウモロコシなどの穀物を余すところなく、小麦粉、プレミックス、植物油、糖化製品、配合飼料などに加工して皆様の食生活にお届けする事業に取り組んできました。製粉、油脂食品、糖質事業から発生する副産物※1を配合飼料原料として有効活用することにより環境負荷の少ないビジネスモデルを実現。持続可能な社会作りに向けて様々な取組みを行っています。 ※1 ふすま、大豆ミール、グルテンフィードなど	取組紹介ページ
	◆	地域との共生（CSR活動）	企業市民活動 フードバンク支援 昭和産業株式会社では、出荷期限を過ぎた製品は賞味期限内であっても処分していましたが、社会福祉施設で活用していただく取組みを推進しています。当社は、こうしたフードバンク機関やサプライチェーンでの連携を強化することで、食品ロス削減に取り組んでいます。 ・寄付寄贈・復興支援活動 当社では、スポーツ団体への食生活応援を目的とした食材の提供や、被災された方々の支援及び被災地の復興にお役にいただくための活動などに取り組んでいます。 ・周辺地域の清掃活動 昭和産業グループは、全国各地の事業所、グループ会社において、従業員による周辺地域の清掃活動を定期的に行っています。また、地域イベントへの協賛・参加などを通して、地域の活性化に貢献しています。その他、地域交流の推進、ワンコイン募金などの取組みなどを行っています。	取組紹介ページ

昭和産業株式会社	◆	環境負荷の低減（水使用量の削減）	地球温暖化の進行、また世界人口が増加する中、「水リスク」は常に上位に位置づけられており、その脅威は年々強まっています。昭和産業株式会社グループの事業活動に水資源は必要不可欠であることから、取水による環境への影響を抑制するために、2021年度に設置した「水使用量削減部会」を中心にして、水の使用量の削減に取り組んでいます。海水を除いた水使用量を生産量で除した水使用量原単位について、「中期経営計画23-25」の目標では、当社グループで2025年度までに2019年度比で9%以上削減、そして、2030年度には12%以上削減するという目標を設定しています。既存の工程の見直しや効果的な施策の導入を通じて、2022年度は2019年度比6.5%の削減となりました。今後も、当社グループでは、限りある水資源を有効利用するため、水使用量の削減に継続的に取り組んでいきます。	取組紹介ページ
壤結合同会社	◆	八百結び®プロジェクト	壤結合同会社では、土壌微生物の活性を通じて地球本来の循環サイクルを実現する八百結び®プロジェクトに取り組んでいます。地域の畜産農家が排出する糞尿や家庭用生ゴミなど、本来廃棄される有機物を独自のバイオスティミュラントと掛け合わせて付加価値の高い農業用資材（産土・培養水）を生成しています。地域土壌の健康力（微生物活性量の見える化）を整える目的を持って地域農家へ供給することで、無農薬栽培、減農薬栽培をサポートしています。	取組紹介ページ
日本生活協同組合連合会	★	コープサステナブルアクション	日本生活協同組合連合会ではSDGsの実現に向けて、全国の生協で推進する「生協の2030環境・サステナビリティ政策」のもと、様々な取り組みを行っています。2023年から実施している「コープサステナブルアクション」では、様々なコンテンツをとおして、全国の生協とともに環境や社会問題について「知り」「学び」「アクションする」仲間を増やし、持続可能（サステナブル）な世界の実現を目指しています。2023年は全国37生協が参加し、32万を超えるアクションが行われました。	取組紹介ページ
日本農業株式会社 たんとスープ・たんとファーム	●	野菜をたんと食べてほしい「たんとスープ」	日本農業株式会社「たんとスープ」は農業からスタートした、農家直営のスープとサラダのお店です。「たんと野菜を食べてほしい。」人と地球の健康を考えながら、現代人の栄養バランスに配慮してつくっています。わたしたちのスープは、野菜のへたや皮、不揃いの野菜たちも余すことなくじっくり煮込んでつくった野菜出汁「ベジブロス」をベースに、旬の野菜をたっぷり使用しています。また、自社農園のたんとファームでは、農薬や化学肥料を使わず、自然の力でお野菜を育てています。元気いっぱいのお野菜を余すことなく取り入れたスープを作ることで、農を通じて人と地球を健康にすることに挑戦し続けます。たんと冷凍スープは電子レンジで温めるだけ、お皿いらずのエコカップを採用しています。オンラインショップでは全国どこからでも、ご注文いただけます。	取組紹介ページ
ハウス食品グループ本社株式会社	◆	多拠点一括エネルギーネットワークサービス稼働	ハウス食品グループ本社株式会社では、Scope1, 2で2050年カーボンニュートラルを目指しており、太陽光パネルの設置や様々な省エネルギー施策を積極的に推進しています。2024年4月からはJFEエンジニアリングが提供する多拠点一括エネルギーネットワークサービスの運用を開始しました。これはハウス食品グループの生産拠点に大型のガスコージェネレーションシステムを設置し、そこで生み出された熱エネルギーの効率的な利用と、同時に生み出される電気エネルギーについては、グループ8社18拠点へ融通し、対象拠点におけるCO2排出量を16%削減できる取組みとなっています。ハウス食品グループでは、環境活動を通じて、地球も人も健康にする取組みを進め、持続可能な食品バリューチェーンを実現し、様々な価値を提供し続けていきます。	取組紹介ページ

三菱食品株式会社	● プラスチック循環の取り組み	三菱食品株式会社では、マツダ株式会社（兵庫県神戸市）様と協働し、地球環境保護を目的としたプラスチック循環リサイクルを関西エリア一部にて取り組んでいます。当社の物流センターから廃棄されたプラスチック類のストレッチフィルムを、マツダ株式会社様の工場でのリサイクル処理を行い、再生されたリサイクルゴミ袋を当社の物流センターで再利用するという、環境に配慮したリサイクルループを構築する取り組みを展開しています。また、当社の展示会（三菱食品ダイヤモンドフェア2024）では、そのリサイクルループの取り組みによって作られたごみ袋を使用するなど、環境に配慮した取り組みを進めています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②
明治ホールディングス株式会社	● 明治ザ・チョコレート	明治グループで製造・販売している明治ザ・チョコレートは、製造者がカカオ豆（BEAN）から板チョコレート（BAR）までを、一貫して手がける「BEAN to BAR」スタイルで作られており、そのカカオ豆は明治独自の農家支援プログラム「メイジ・カカオ・サポート」を実施した地域で生産されたサステナブルカカオ豆を使用しています。	取組紹介ページ
	◆ プラスチック資源循環の取り組みを強化	明治グループでは、循環型社会の実現に向けてプラスチック使用量の削減における新たな目標を策定しました。石油由来原料のプラスチックの新規使用量の削減やワンウェイプラスチック容器のプラスチック使用量の削減を通じて、プラスチック資源循環の強化に取り組んでいます。	取組紹介ページ
	◆ 明治独自の酪農家支援	明治グループでは、酪農家の生産現場の作業性を向上させて農場マネジメントをサポートする独自の生産者経営支援活動（メイジ・デリー・アドバイザー）を実施しています。明治グループの専門スタッフによるアドバイザーを通して牧場現場の持続可能な酪農の実現を目指します。	取組紹介ページ
	◆ 明治のお菓子の箱で工作を楽しむ	明治グループでは、お菓子の空き箱を使って工作を楽しむためのアイデアをホームページ「ジャック所長の工作名人LABO」で発信しています。お菓子の箱を使ったティッシュケースやメモ帳などの工作のレシピはもちろん、作り方動画なども掲載し、「廃棄物を再利用すること」でSDGsに貢献できる身近なアクションを紹介しています。	取組紹介ページ
森永乳業株式会社	● SDGs 出前授業「おいしい乳製品が届くまで」	森永乳業グループでは、次世代を担う子どもたちの成長支援の一環として出前授業を実施しています。年齢とテーマに応じた4つのプログラムを用意しており、SDGs出前授業では子どもたちが持続可能な世界を築くために、どのようなことに貢献できるのかを考えるプログラムとなっています。	取組紹介ページ
	● ロングライフ商品	森永乳業グループでは、おいさと長持ちの両立のため、食品の殺菌と容器の殺菌を別々に行い無菌的な環境で包装することにより、保存料や防腐剤を使用せず賞味期限を長くするロングライフ技術を用いた商品を多数展開しています。その中の1つ「森永絹とうふ」は日常時・非常時の価値を共に有していることを審査し証明するフェーズフリー認証を取得しています。	取組紹介ページ
	◆ 酪農乳業の取り組みの発信	森永乳業グループでは、酪農家と一緒に良質で安定した生乳生産に取り組む、安全でおいしい牛乳・乳製品をお届けすることを目指し、酪農家への訪問や子牛の預託事業、酪農振興事業を実施しています。	取組紹介ページ
	◆ おからの飼料化	森永乳業グループでは、環境と経済の両面で好循環に向け、豆腐製造時に出るおからに乳酸菌を混ぜて発酵させた飼料をつくり、グループ会社の森永酪農販売が酪農家に販売しています。また、この飼料を給餌している乳牛からの生乳は、生産拠点で原料として使われています。	取組紹介ページ
	● マウンレーニア ディープエスプレッソ	森永乳業グループでは、レインフォレスト・アライアンス認証農園のコーヒー豆を100%使用している、「マウンレーニア ディープエスプレッソ」を製造・販売しています。レインフォレスト・アライアンス認証農園は、森林や生態系の保護、土壌や水資源の保全、農場労働者の労働環境、生活や人権の向上を目指して取り組みを行っており、認証農園のコーヒー豆の使用を通じて持続可能な社会の実現に貢献したいと考えています。	
MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社 サステナビリティ推進部	◆ MS&ADグリーンアースプロジェクト：ペーパーレス等による環境負荷低減	MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社グループは「保険」を通じてお客さまとともに地球環境を保護するための「MS&ADグリーンアースプロジェクト」に取り組んでいます。三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保では、お客さまに紙の使用量を削減する「eco保険証券」「Web約款」「Web満期案内」、環境にやさしい自動車修理を行う「リサイクル部品活用」などを選択いただいた件数に応じて、地球環境保護などの取組に寄付しています。	取組紹介ページ① 取組紹介ページ②

海外

メンバー名	種類	取組名	取組内容	参照リンク先
株式会社デルタインターナショナル	●	大地の恵みで人の「みらい」を創る	株式会社デルタインターナショナルでは、持続的農業ができる仕入先との取り組みや、品質、商品企画等にて農産物を有効活用できる活動をしています。	取組紹介ページ
明治ホールディングス株式会社	●	明治アグロフォレストリーチョコレート	明治グループでは、アグロフォレストリーチョコレートの生産を通じて、ブラジルの「森をつくる農業」とよばれるアグロフォレストリー農法を支援をしています。アマゾンの森林再生や生物多様性の保全に貢献するとともに農家の人々の安定的な生活を支えています。	取組紹介ページ
森永乳業株式会社	◆	マウントレーニアの森 プロジェクト	森永乳業グループでは、温暖化が進む中でも、持続的にコーヒーを作り続けられる環境の保全を目指し、コーヒー豆で取引のあるブラジルのダテーラ農園と植樹事業「マウントレーニアの森 プロジェクト」に取り組んでいます。2030年までに30万本の木を植樹する計画です。	取組紹介ページ